

種名称 (学名)	ヒツジグサ <i>Nymphaea tetragona</i>				参考文献：川の生物図典				
カテゴリー	分類：被子植物双子葉離弁花類スイレン科 別名：スイレン 生活型：多年草、浮葉植物								
本種写真	生息環境写真	分布	形態	類似種	生育場所	繁殖	他の生物との関係	配慮のポイント	トピックス
 	  	北海道、本州、四国、九州、中国大陸、インド北部、シベリア、北アメリカ、ヨーロッパなどに広く分布する。	根：4月頃、塊状の根茎から径1～2mmのひげ根を叢生する。 葉：4月頃、塊状の根茎から水中葉と浮葉を根生する。葉柄は細長く、横断面は楕円形で長径7mm、短径約5mm。 水中葉は最初のものは矢尻形であるが、その後のものは半円形で淡緑色を呈し、薄膜状で皺がある。 浮葉は馬蹄形でやや厚く、卵円形または卵状楕円形、長径10～20cm、短径5～15cmで葉柄まで深く裂ける。表面は濃緑色でときに赤みを帯び、光沢がある。裏面は暗紫色で、中央より放射状に出る葉脈は3脈だけが特に明瞭。 花：花期は6～10月。根茎より長い花茎を水面まで伸ばし、花径3～6cmの白色多弁花を1個開く。真夏の快晴の日には正午頃から咲き始め、午後2時頃（未の刻）全開し、午後4時頃から閉じ始める。昼夜における花の開閉運動は5～7日間続く。未の刻に開くことからヒツジグサとよばれる。 果実：花後、子房と花托が発達し、高さ約1.2cm、幅約1.5cmの漿果ができる。長い花茎はらせん状に縮んで水中に没し、果実は水中で成熟する。成熟すると灰黒色の袋状の仮種皮に包まれた長さ約8mmの袋果が多数でき、よく水に浮いて移動するが、約1日後には仮種皮内に水が侵入して水底に沈む。	エゾノヒツジグサは本州中部山岳地帯や東北・北海道に分布し、葉の切れ込みの長さや花弁の数からエゾノヒツジグサとして区別する説があるが、ヒツジグサとは明瞭には区別できない。 ガガブタは池沼に生育する多年生の浮葉植物で、リンドウ科に属する。浮葉はヒツジグサに似るが、全体に丸みが強く、切れ込んだ葉の先端も、ヒツジグサのように尖らない。葉柄に基部から多数の短い花茎を伸ばし、先端に白い花をつける。花のつき方、形状はヒツジグサとは異なる。 アサザはガガブタの仲間で、浮葉はヒツジグサに似るが、切れ込んだ葉の先端が尖らないこと、葉の縁が波うち、鈍い鋸歯があることなどで区別される。葉の腋に数本の花茎を出し、先端に黄色い花をつける。	各地の古い池や沼の水深1～2mの水域に生育する。 水深1m位のところの大きな群落をつくることもある。 栽培種のスイレンにおされて、野生のヒツジグサは激減している。 ジュンサイーヒツジグサ群集の標微種である。	種子または根茎（地下茎）で越冬し、繁殖する。 種子は4月頃発芽し、第1葉は針状、第2葉は矢尻状で、第3葉以後に馬蹄形の葉が出る。 越冬した根茎（塊茎）からも4月頃発芽する。	○イネネクイハムシの食草となる。	○古くからある沼や溜め池を保存し、水質浄化に努める。	○花は止血剤や鎮痛剤として利用される。